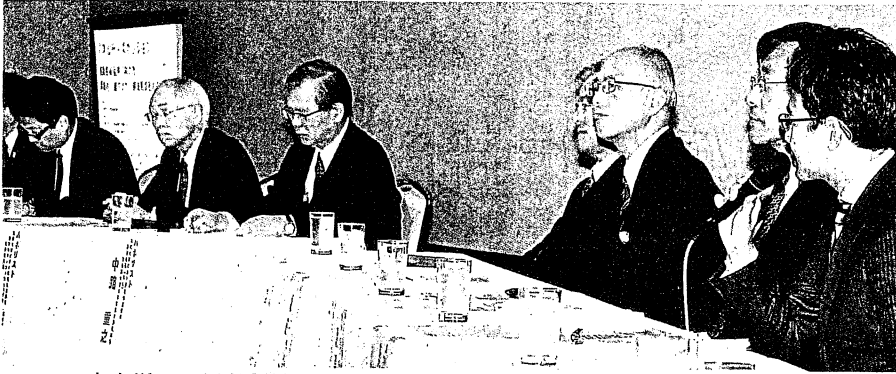


# 弘大・岩木健康増進プロジェクトの成果生かせ

## 健康寿命伸ばす産業を

### 弘前産学官が意見交換

弘前大学、県、弘前市、県医師会など30日、ホテルナクアシティ弘前で「弘前大学COIイノベーション・サミット」を開いた。産学官の関係者約450人が健康寿命延伸に向けた産業創出の在り方を探った。(佐藤彩乃)



産学官の関係者が健康寿命延伸に向けた取り組みを話し合ったサミット

弘大などが弘前市岩木地区で行っている「岩木健康増進プロジェクト」で得たビッグデータを活用し、脳疾患の予防や早期治療に役立てる産学官共同研究は2013年、国の革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)に採択されている。

サミットでは、「健康寿命延伸に向けた改革『健やか力』創造拠点をめざして」をテーマに三菱総合研究所の小宮山宏理事長や、GEヘルスケア・ジャパンの川上潤社長、弘大大学院医学研究科の中路重之科長らが討議。「COIからベンチャー企業が出てほしい」「起業には全く異業種の人が加わるべき」「成果が出れば、その都度すぐに具体的な取り組みに結びつけることが大切」などと、研究成果の社会への還元に向け意見を交わした。

また、中路科長は、14年で10年目を迎えた同プロジェクトの成果を報告。05年に男性75・8歳、女性85・0歳だった弘前市の平均寿命が、10年に男性が1・9年延び77・7歳、女性が0

・7歳延び85・7歳と、全国の平均延伸である男性0・8歳、女性0・6歳を上回ったと報告。さらに今年4月、産学官で連携して「健やか力推進センター」を設立し、県内各地で運動や食事など健康づくりに関する人材育成を行う方針を明らかにした。